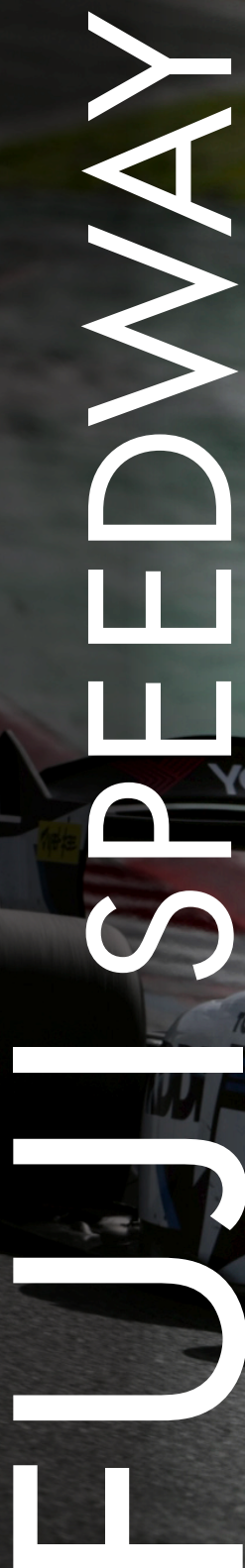


SUPER FORMULA RACE REPORT

[spectators] 53,400人 (sat 22,900人 / sun 27,300人)

Rd.11-12 SUZUKA CIRCUIT >>>>>>>>> **NOV 21-23**



FULL SPEEDWAY





29号車に野中誠太を起用。
今季初ポイントを目指すも、
夏のコンディションに悪戦苦闘。

2025年全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round6・Round7が7月19日(土)・20日(日)に富士スピードウェイで行われた。KDDI TGMGP TGR-DCは、今回から29号車のドライバーに野中誠太を起用し、後半戦最初の大会に臨んだが、2台ともポイント獲得には及ばず。28号車、小高一斗のRound7の15位が最上位で、野中も後方から追い上げを目指すも、Round7で左フロントタイヤが外れるトラブルに見舞われ、レースリタイヤとなった。

KDDI TGMGP
TGR-DC

KAZUTO KOTAKA

28

Driver 小高 一斗

Rd.6

予選 17位

決勝 18位

Rd.7

予選 21位

決勝 15位

Rd.6	予選Q1	P9 (A Gr) / 1'23.315
	予選Q2	-
	決勝	P18 / 1'25.303
Rd.7	予選Q1	P11 (A Gr) / 1'24.286
	予選Q2	-
	決勝	P15 / 1'25.567

KDDI TGMGP
TGR-DC

SEITA NONAKA

29

Driver 野中 誠太

Rd.6

予選 20位

決勝 19位

Rd.7

予選 22位

決勝 DNF

Rd.7	予選Q1	P10 (B Gr) / 1'23.856
	予選Q2	-
	決勝	P19 / 1'25.831
Rd.7	予選Q1	P- (B Gr) / 1'29.602
	予選Q2	-
	決勝	DNF / 1'26.395

Rd.6

予選 天候:晴れ/気温:28℃/路面温度:38℃

決勝 天候:晴れ/気温:33℃/路面温度:49℃

QUALIFYING



トヨタの若手ドライバーたちを育成する目的で今季立ち上がった KDDI TGMGP TGR-DC は、今回より29号車のドライバーを平良響から野中誠太に変更。6月に富士スピードウェイで行われた公式テストでのデータも踏まえ、今季初ポイントを目指して2連戦に挑んだ。

晴天のなかで始まったRound6の予選は小高がQ1Aグループに出走。僅差の争いのなかで1分23秒315を記録したが、9番手でQ2進出はならず。続くBグループでは、このチームで初レースとなる野中がアタックし、1分23秒856で10番手。決勝レースでは後方から巻き返しを目指していく。

RACE



36周で争われたRound6決勝。スタートから激しい順位争いが繰り広げられるなか、2台ともアクシデントに巻き込まれることなくレースを進めていった。17番グリッドの小高はスタートで2つポジションを上げて、ポイント圏内を目指したが、20周目のタイヤ交換で作業に時間を要し、順位を大幅に下げる。そこから挽回を図ってライバルに迫っていったが大幅な順位アップはならず、18位でレースを終えた。

20番グリッドの野中は、10周目にタイヤ交換を行う作戦で順位を上げようとしたが、思うようにペースが上がらず、19位という結果になった。

Rd.7

予選 天候:晴れ/気温:30℃/路面温度:46℃

決勝 天候:曇り/気温:31℃/路面温度:50℃

QUALIFYING

朝から気温30℃を超える暑さとなったRound7。前日の反省点を踏まえてセッティング等を見直し、上位進出を目指して2台のマシンがタイムアタックに臨んだ。

小高は前日と同様にQ1Aグループに出走。路面コンディションがRound6の時と変わっていることもあり、各車とも前日と比べてタイムが良くないなか、懸命なアタックをみせたが、1分24秒286でグループ11番手となった。Q1Bグループの野中はチームのオペレーションミスで時間内にタイムアタックを開始することができず、1分29秒602のベストタイムで終わる不完全燃焼な結果に終わった。



RACE

全車に搭載されている計測器をレース前に急ぎょ交換することになり、当初の予定より42分遅れで始まったRound7決勝(41周)。22番グリッドからスタートした野中は前日とは異なり、後半までピットストップを遅らせる作戦を選んで周回を重ねていたが、17周目のダンロップコーナーで左フロントタイヤが外れかかる事態に見舞われた。なんとかピットまで戻ろうとしたが、13コーナーでマシンを止めてリタイヤとなった。

21番グリッドの小高は好スタートを決めて、2周目に13番手まで浮上。ライバルたちと激しいバトルを繰り広げ、15位でチェッカーフラッグを受けた。



28



出来る限り頑張りましたが、
上位とは差がある状態です。

ドライバー 小高 一斗

Round6から全体的にオーバーステアなところがあって、そこに苦労していました。Round7も含めて、今ある状況のなかで最大限のパフォーマンスを出して、出来る限りのことはやったと思います。少しずつ進歩しているところはありますが、トップ10を走っている選手たちとは差があると感じています。次のSUGOも暑いコンディションになると思うので、そこでの走らせ方やタイヤの使い方を見直して、今よりも良い状態で臨みたいです。

29



これからもレースは続くので、
諦めずに頑張りたいです。

ドライバー 野中 誠太

テストでいろいろ試してきて効果は出てはいますが、実際にタイムにつなげるためには何をすれば良いのか見つけられていません。小高選手も同じで、2台とも似ている部分はあると感じています。Round7決勝では、急に左フロントが外れた感じで、前兆や異常は何もありませんでした。こういう結果になりましたが、このチームでは最初のレースですし、これからもレースは続きます。諦めずに頑張りたいと思います。



監督
片岡 龍也

今回の富士は気温が高くダウンフォースが少ないというコンディションだったので、難しさが顕著だったと感じます。いろいろと試しましたが、なかなか方向性を見出すことができず、チームに携わる全員が、それぞれの立場でストレスを感じる週末だったと思います。Round7ではオペレーションミスで野中がタイムアタックできず、決勝も原因不明のタイヤ脱落というトラブルもありましたが、パフォーマンス不足が一番の問題です。応援していただいている皆さんには本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。















